

地域活動協議会への支援状況(運営)

【城東区】(受託者:一般財団法人大阪市コミュニティ協会)

めざす姿	地域活動協議会の取組(※)	地域課題やニーズ(支援が必要な課題等)	実施時期	支援策(取組)名称	支援(取組)概要	実績(参加者数等)	
自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)	I 地域課題への取組						
		地域課題やニーズに対応した活動の実施	区内の各地域が、自地域の課題や解決の事例を紹介、交換することで、他の地域が課題解決のためのヒントを得るためや、課題を共有するために実施する。	4月～	地域活動協議会間の情報交換会支援	毎月1回、各地域が順次、主催地域となり実施する。運営方法や連絡、内容の作成などを支援する。地活協構成員や住民の参加を増やし、担い手の育成にもつとめる。	終了地域:榎並地域(34名)、鴨野地域(109名)、葦地域(52名)、放出地域(63名)、鯉江地域(50名)、東中浜地域(64名)、関目地域(50名)、成育地域(88名)
			災害時の避難に関して、地域住民が参加した訓練を実施しておらず、避難所や避難ルートを知らない。	5月15日～6月27日	今福地域防災避難訓練の企画・運営実施の支援	災害時に避難先、避難ルートを知るために訓練を実施する。地域及び小学校が連携しておこなう。事業企画と、当日の運営支援をする。事前に防災リーダーをはじめ、防災部会の構成員に避難訓練の情報提供と運営方法、課題の共有を図り実施する。ポスターにより住民の参加を促す。	参加者:児童191名 住民400名
			三方が川に囲まれている地域であるにもかかわらず、災害について関心度が低く、防災訓練に参加する者が少ない。	5月31日(実施日) 6月23日(検討会)	城東地域防災訓練事業実施支援及び訓練課題の検討会	防災訓練で自助、共助を知ってもらい、それを契機として地域活動に参加してもらうことで、共助のためのつながりを作ってもらう。事前の事業告知、募集の事務支援及び当日の訓練実施運営の支援をする。訓練後、参加者が訓練を踏まえ課題の検討会を実施しする。また、次のためのアイデア出しを実施する。	参加者 5/31:18名 6/23:19名
			地域が取り組む高齢者見守り事業と、区社会福祉協議会が実施する見守り事業とが、重複して実施しようとしている。	6月11日～	森之宮地域高齢者見守り事業実施支援	区社協がおこなう見守りネットワーク強化事業との調整を行い、円滑な事業連携の実施のための調整、連携の支援をする。	区社協、森之宮病院、地域との連携、調整
			災害時に地域におけるボランティア、協力者の数が少ない。	6月15日～	成育地域防災委員の仕組づくりの支援	地域住民を対象に、平常時には災害に対する情報提供や防災訓練の参加、災害時にはボランティアとして協力してくれる方を、防災委員として登録してくれる方を募集する仕組みを作る、ポスターなど媒体を利用した合意形成の支援をする。	会議3回 出席者:36名
			地域での防災の理解を深めるため広報と防災に関わる協力者を増やす。	6月20日(当日29日)	成育地域DIG(災害図上訓練)事業支援	DIG実施のために参加者募集ポスターの作成をおこない地域住民へ告知をす。当日の事業運営の支援を行なう。地域防災訓練に小学校が参加するために、地域と小学校との協議を支援する。	当日参加者:111名
			地域では災害について関心度が低く、避難所開設訓練は実施していない。	7月7日 9月18日 12月(訓練予定)	城東避難所開設訓練の実施支援	避難所及び避難所開設について勉強会を実施する。勉強会実施後、ワークショップ形式で災害などの地域の課題を共有し、避難所開設訓練に望む。	参加者 7/7:8名 9/18:ワークショップ32名
			地域活動を長年実施しているが、課題の確認と共有を必要性を感じている。	8月5日～	城東地域課題の抽出のために、アンケート調査実施の合意形成と実施運営の支援	現在実施している地域活動を再設計するために、課題を確認する必要がある。そのために地域のアンケート調査を実施する旨の提案をおこない、運営委員の合意形成をおこなった。下半期には、各団体が連携して、アンケート調査実施するので支援をする。	全世帯対象のアンケート調査実施の一定の合意を得たので、調査項目の検討を支援する。
			60歳以上の人が区内で多く、軽作業ができない高齢者と時間があるリタイアした人の活用。	8月10日～	今福お助け隊事業計画作成の支援	60歳以上の人が区内で多く、軽作業ができない高齢者と時間があるリタイアした人の活用のマッチングをする。コミュニティビジネスの視点から事業検討し、他地域の事例を紹介する。ニーズ把握の調査を提案し、実施に向けて検討している。	役員5名、包括支援センターとニーズ調査の検討。
			地域防災に関心をもってもらい、小学校児童を含めた地域全体で、防災を考えるために実施。	11月14日	成育地域避難訓練の支援	各町会から小学校へ避難を行なう。小学校、病院、地域の連携を図る。そのために、他地域の実施情報を提供し、地域全体の訓練なので各部会間の情報共有と連携を図るために、会議運営、資料作成の支援をする。	訓練参加者:483名 成育小学校児童:729名 ボランティア:98名
			寝屋川、第二寝屋川に囲まれているが、水害に関する防災意識が少なく、防災訓練の参加者が少なく、避難所開設の訓練経験がない。	11月29日 12月4日	城東避難訓練の企画、運営等の支援	地域に水害が起こった時を想定して、各町会から小学校に避難をおこなう。また、避難所では要援護者の支援の訓練をおこなう。避難訓練のノウハウを地域は持っていないので、資料の提供や参加者の告知、会議運営などの支援をおこなう。避難所運営ゲーム(HUG)の運営、避難所開設ワークショップ、避難所を開設訓練をおこなう。	11/29 参加者:513名 12/4 参加者:29名 1/15 参加者:35名 1/30 参加者:73名
			高齢者見守りを推進していく中で、各町会での見守りの仕組みが無いので、担い手を集めてネットワーク委員会の再構築をする。	1月26日	鴨野地域ネットワーク委員会の再構築に向けた支援(再掲)	一度ネットワーク委員会を解散したが、地域活動協議会で高齢者見守り事業をするために、福祉ネットワークを構築するために、他地域の実務者を地域に招いて事例報告と意見交換をする。	参加者:6名
	法人格の取得	事業を継続するために、事業主体をどうするか。法人格を取得するための意義と取得の知識が不足している。	7月3日	法人格取得に関する情報提供と設立についての説明	NPO法人設立に関する情報提供を行い、NPO法人設立についての説明を行い、財源のための助成金情報を提供する。	出席者:13名	

地域活動協議会への支援状況(運営)

【城東区】(受託者:一般財団法人大阪市コミュニティ協会)

めざす姿	地域活動協議会の取組(※)	地域課題やニーズ(支援が必要な課題等)	実施時期	支援策(取組)名称	支援(取組)概要	実績(参加者数等)
II つながりの拡充						
イベント等の取組に、これまで地域活動に関わりの薄かった住民の参加が促進され、地域住民同士のつながりが拡大している	これまで地域活動に関わりの薄かった住民の参加の促進	災害時の避難に関して、地域住民が参加した訓練を実施しておらず、避難所や避難ルートを知らない。	5月15日～6月27日	今福地域防災避難訓練の企画・運営実施の支援(再掲)	災害時に避難先、避難ルートを知るために訓練を実施する。地域及び小学校児童の連携をおこなう。事業企画と、当日の運営支援をする。事前に防災リーダーをはじめ、防災部会の構成員に避難訓練の情報提供と運営方法、課題の共有を図り実施する。ポスターにより住民の参加を促す。	参加者児童191名 住民400名
		外出をする機会の少ない高齢者の多い地域であり、子どもが少ない。	5月24日	森之宮フェスティバル事業運営支援	地域の子どもが活躍する文化祭の企画、運営をすることで、高齢者の参加を促し、世代間の交流ができて内容の改善を支援する。また、子ども、高齢者に関わる団体間が連携して事業を進める。	参加者:述べ800名
		地域住民の大部分は、集合住宅に住む住民である。墓地域の歴史を知ること、地域に愛着をもつ。	5月25日	すみれ魅力創出事業実施支援	墓地域の文化、伝統、旧跡などを掘り起こして、地域の魅力を再発見し、愛着を持ってもらうための事業を企画提案する。最初は案内人により、地域内及び隣接地域のまち歩きの実施運営を支援する。	参加者:40名
		地域活動が地域住民に浸透しておらず、住民の地活協会に対する認識が不十分である。	6月～	墓地域活動協議会の広報支援	事業をポスター、チラシだけでなく、広報紙、HP、フェイスブックなどを通じて周知し、事業の参加者や出演者を募る。また、地活協の広報をすることで、地活協の協力者を増やす。	はぐくみネット、PTAから事務、広報担当で6名参加
		地域には高齢者が多く、河川に囲まれており、地域にあった現実的な避難訓練の実施。	6月5日～(当日:6月27日)	今福地域防災訓練事業実施、事務支援(再掲)	全住民を対象とした避難訓練を実施を考えているが、地域にはノウハウがないので、他地域の事例紹介、訓練資料の情報提供を行い、事業実施を支援する。今福小学校と連携をとり、学童の参加を得るための調整をする。	参加者:児童191名、住民400名
		地域行事で一番大きな行事であるが、参加者がH25年度は少なく、H26年度で改善しH25年度より多くなっているが、他地域と比較して参加者が少ない。	6月5日～(当日:7月26日)	城東地域盆踊り事業支援	他地域のまつりと比較して、劣っているものを検討し、内容について、各町会から夜店出店することを提案し、夜店運営の指導をする。また、集客を増やすためには、以前より優れたデザインや内容がわかりやすいポスターを作成し告知をした。	参加者:のべ2800名
		盆踊り事業は、前年度踏襲の事業となっており、参加者が少ない。	6月8日～(当日:7月26日)	城東地域盆踊り事業の改善支援	盆踊り事業を、より多くの集客と活性化をするために、運営方法と他地域の情報提供をおこなう。前年度アンケートを基に、事業改善を図るというPDCAサイクルをつくる。作成方法を指導する。次回のために、自由な議論の場を設定し反省会を実施する。	参加者:2800名
		住民に地域行事の理解が低く、活動に参加する人が少ない。	6月10日～9月13日	中浜防災訓練事業企画、実施運営の支援	安否確認訓練、避難訓練、防災訓練の防災をきっかけに地域行事への参加を促し、参加を得るためにポスター、チラシでの告知を実施する。また、災害時に協力していただける人を登録することで、担い手の発掘をする。防災訓練を契機に、包括支援センター、病院、小中学校との連携をおこなう。	本会場に参加:500名 一時避難所に安否確認報告をした世帯:1223世帯 災害ボランティア登録者:30名
		防災訓練が毎年同じで、訓練参加者が少ない。	6月14日	墓地域防災訓練の支援	他地域の防災訓練の情報を提供し、多くの住民が参加するためのポスターやフェイスブックを通じ、参加者増をはかる。	参加者:200名
		災害時に地域におけるボランティア、協力者の数が不足している。	6月15日～	成育地域防災委員の仕組づくりの支援(再掲)	地域住民を対象に、平常時には災害に対する情報提供や防災訓練の参加、災害時にはボランティアとして協力してくれる方を、また防災委員として登録してくれる方を募集する仕組みを作る、ポスターなど媒体を利用しての合意形成の支援をする。	会議3回 出席者:36名
		地域活動に関わりの薄かった住民を防災訓練をきっかけに参加を促す。	6月16日～9月13日	中浜防災訓練事業実施支援	防災訓練の参加を促す。見て分かりやすいポスター、チラシを作成し、告知をする。	町会回覧、ポスター、フェイスブックに掲載し 前回→今回の参加者 会場:700名→650名(内子供9名→70名)
		独居高齢者の居場所がなく、また地域内には食料品店がないので、買い物する場所がない。	6月16日～	森之宮「緑側カフェ」事業企画及び実施の支援	地域の課題である独居高齢者の「孤独死」を未然に防ぐために、憩の家を地域全体の「縁側の居場所」とし、気軽に集う場を提供し、また他の高齢者とのつながりを作る場所を実施運営するために支援する。地域内の病院(森之宮病院)及び包括支援センターと連携を図り、高齢者の見守りも実施する。買い物難民のために、青果販売も同時に実施し、高齢者以外の住民も集客する。実施運営するためにポスター作成などの支援をおこなう。	新規ボランティア:5名 7月～20名程度 青果販売 10月～50名程度
ポスターを使って事業の告知をおこなうが、住民参加を促すための作りになっていない。	5月29日(訓練当日:6月21日)	鯉江地域の告知ポスター作成の勉強会	防災訓練の告知で、見てもらえるポスターを作成することで、住民の参加を前回よりも増やす。	参加者:110名		

地域活動協議会への支援状況(運営)

【城東区】(受託者:一般財団法人大阪市コミュニティ協会)

めざす姿	地域活動協議会の取組(※)	地域課題やニーズ(支援が必要な課題等)	実施時期	支援策(取組)名称	支援(取組)概要	実績(参加者数等)
		独居高齢者の居場所がなく、また地域内には食料品店がないので、買い物する場所がない。	6月16日～	森之宮縁側カフェ事業企画及び実施の支援(再掲)	地域の課題である独居高齢者の「孤独死」を未然に防ぐために、「憩の家を地域全体の「縁側の居場所」とし、気軽に集う場を提供し、また他の高齢者とのつながりを作る場所を実施運営するために支援する。地域内の病院(森之宮病院)及び包括支援センターと連携を図り、高齢者の見守りも実施する。買い物難民のために、青果販売も同時に実施し、高齢者以外の住民も集客する。(再掲)	新規ボランティア:5名 7月～20名程度 青果販売 10月～50名程度
		地域に関わりの少ない住民が、つながりを作るきっかけにするために、住民参加型のフェスティバルを実施する。	6月20日～11月3日(予定日:11/3)	聖賢地域フェスティバル実施の支援	新規事業実施にかかる企画の提案をする。実施に向けてアドバイスなどをおこない、支援の継続をする。	新規事業実施(11/3) 出演者400名、出演団体13団体 後記「聖賢音楽文化祭」開催に同じ
		地域が独自で効果的な情報発信ができることを目指す。	6月21日	鯉江地域防災訓練事業実施支援	防災訓練を実施するために、事業実施、事務支援をする。前回より広く住民に参加を促すために、参加促進のポスターとチラシの作成支援を行う。	訓練参加者:110名
		地域まつりに来ない住民参加を得るために、まつりの内容と告知について改善する必要がある。	6月26日～7月25日	今福まつり事業支援	まつりを活性化するために、他地域の情報提供をおこない新規プログラムの提案をおこなう。ポスター、チラシ、フェイスブックなどで、広く地域住民に周知する。	参加者:のべ700名
		盆踊り事業に、地域住民の参加者が少なく、実施するための財源が少ない。地域活動を広く住民に知らせる必要がある。	7月1日～31日(当日:7月25日、26日)	中浜地域盆踊り事業支援	26年度盆踊り事業が終了後から27年度に向けて、盆踊りの活性化と、財源確保のために事業検討会の支援をおこなう。活性化のための集客方法や、財源確保のための寄付集金方法などを指導する。また集客のために、夜店の出店、チラシ、ポスターの作り方の指導をする。また、アンケートの実施をすることで、盆踊りにおける課題の検証を行う。	参加者:のべ1700名
		認知症が多くなって来ている中、本人や家族が基礎的な学習とネットワークをつくる。	7月1日	聖賢認知症講演会事業実施支援	地域と病院とのマッチングをおこない、病院(東大阪病院)と連携し、認知症講演会を実施する。	参加者:30名
		地域内で子育て世帯が少ない上に、子育てに孤立している母さんのつながり、相談相手が無い。	7月2日～	森之宮地域子育てサロン行事支援	子育てサロンのポスター作成をおこない、集客する。フェイスブックを利用して、子育てサロンの楽しさを見せることで、サロンイベントの参加を誘導する。イベントの内容の提案と実施運営の支援をする。サロンイベントを契機に子育てサロンを利用してもらい、お母さん同士のつながりをつくる。	参加者:親子12組
		地域行事に参加の少なかった住民や、小学生の行事参加者を増やすため。	7月5日	成育文化祭運営支援	子どもを対象とした発表会を実施することで、子どもを介在に、地域活動に関わりの少なかった世代の参加を目指す。分かりやすいポスターの作成を指導することで、前年度より参加者を増やす。	参加者:330名 出演団体:10団体
		地域活動にかかわりの少ない人の参加を促し、地活協内の団体及び、地域の団内と協働事業の実施。	7月23日～7月25日	聖賢まつり事業支援	構成団体以外の団体の参加を得るために、協力してくれる団体へ説明に行き、参加を促す。また各団体の運営スタッフが、円滑に運営をするために、マニュアルの作成等の事務支援をする。	参加者:のべ2000名
		地域内で孤立してる子育て中のお母さんのつながり、相談相手が無い。	8月11日～9月4日	今福地域子育てサロン行事支援	子育てサロンのポスター作成をおこない、集客する。フェイスブックを利用して、子育てサロンの楽しさを見せることで、サロンイベントの参加を誘導する。イベントの内容の提案と実施運営の支援をする。サロンイベントを契機に子育てサロンを利用してもらい、お母さん同士のつながりをつくる。	今福地域活動協議会
		地域行事の参加の少ない住民に、商店街と連携して夜店をおこなうことで、他の行事にも参加をうながすため。また、夜店をすることで、地活協の財源の確保の手段とする。	10月3日	城東地活協の商店街出店の事業支援	行事の参加が少ない地域住民が商店街夜店に参加し、また地域活動協議会は商店街との連携をおこなう。地域活動協議会が夜店を運営することで、地活協の財源の確保の手段とする。	地域活動協議会構成員参加者:10
		地域内に商業施設はほとんど無く、日常生活用品は地域外に購入に行く。赤バスの廃止で高齢者、障害者の移動が難しくなっている。中央大通りを横断したり、歩道橋を使うなど、必要があるため、高齢者にとっては日常生活に支障をきたす。	10月25日～	森之宮地域ふれあい喫茶で「産直野菜販売」	買い物が困難な高齢者や、障害者の方の負担を軽減するために、UR団地内で実施しているふれあい喫茶の開催と同時に実施。高齢者見守りのために実施している「ふれあい喫茶」に合わせて販売する。広報は、団地内の各階エレベーター横にポスターを掲示。全住民が分かるようにおこなう。ふれあい喫茶への参加者の増の相乗効果も兼ねる。	毎月1回(10/25, 11/22, 12/20,1/24) ふれあい喫茶参加者 :平均50名⇒80名に増
		地域で活動する老若男女の文化団体、障害者施設、病院などの発表の場を設けることで、直接関わりのない団体が交流するためのきっかけをつくる。また、地域活動に参加していなかった人の参加を促す。	11月3日	聖賢音楽文化祭の企画、運営支援	聖賢地域で活動する多様な音楽、文化団体、障害者施設、病院などが、音楽や習い事の発表する場を設け、参加団体のメンバーが実行委員会を形成し運営を行なう。運営が円滑におこなえるように企画等の事務支援、運営支援をおこなう。障害者施設、病院は運営に関与し地活協と積極的に連携をするために支援する。	参加者、出演者:400名 出演団体:13団体

地域活動協議会への支援状況(運営)

【城東区】(受託者:一般財団法人大阪市コミュニティ協会)

めざす姿	地域活動協議会の取組(※)	地域課題やニーズ(支援が必要な課題等)	実施時期	支援策(取組)名称	支援(取組)概要	実績(参加者数等)
		地域ので実施していた防災に関心を、小学校も含めて、児童を含めた地域全体で実施する。	11月14日	成育地域避難訓練の支援(再掲)	各町会から小学校へ避難を行なう。小学校、病院、地域の連携を図る。そのために、他地域の実施情報を提供し、地域全体の訓練なので各部会間の情報共有と連携を図るために、会議運営、資料作成の支援をする。	訓練参加者:483名 成育小学校児童:729名 ボランティア:98名
		新成人を地域で祝うことで、地域に愛着を持ってもらい、将来の地域活動の担い手の確保をする。	1月15日	今福成人式企画、運営の支援	今回はじめて、成人式を地域で実施する。新成人を地域で祝うことで、地域に愛着を持ってもらい、将来の地域活動の担い手になってもらうためにおこなう。	実行委員会新成人:4名
		高齢者見守りを推進していき中で、各町会での見守りの仕組みが無いので、担い手を集めてネットワーク委員会の再構築をする。	1月26日	鳴野地域ネットワーク委員会の再構築に向けた支援(再掲)	一度ネットワーク委員会を解散したが、地域活動協議会で高齢者見守り事業をするために、福祉ネットワークを構築するために、他地域の実務者を地域に招いて事例報告と意見交換をうする。	参加者:6名
地活協を構成する活動主体同士や、地活協と他の活動主体との連携・協働が促進されている	地域活動協議会を構成する活動主体同士の連携・協働(担い手の拡大含む)【地域活動協議会内部】	外出をする機会の少ない高齢者の多い地域であり、子どもが少ない。	5月24日	森之宮フェスティバル事業運営支援(再掲)	地域の子どもが活躍する文化祭の企画、運営をすることで、高齢者の参加を促し、世代間の交流ができ内容の改善を支援する。また、子ども、高齢者に関わる団体間が連携して事業を進める。	参加者:800名
		独居高齢者の居場所がなく、また地域内には食料品店がないので、買い物する場所がない。	6月16日～	森之宮縁側カフェ事業企画及び実施の支援(再掲)	地域の課題である独居高齢者の「孤独死」を未然に防ぐために、憩の家を地域全体の「縁側の居場所」とし、気軽に集う場を提供し、また他の高齢者とのつながりを作る場所を実施運営するために支援する。地域内の病院(森之宮病院)及び包括支援センターと連携を図り、高齢者の見守りも実施する。買い物難民のために、青果販売も同時に実施し、高齢者以外の住民も集客する。実施運営するためにポスター作成などの支援をおこなう。	新規ボランティア:5名 7月～ 20名程度 青果販売 10月～ 50名程度
		地域活動にかかわりの少ない人の参加を促し、地活協内の団体及び、地域の団内と協働事業の実施。	7月23日～7月25日	聖賢まつり事業支援(再掲)	構成団体以外の団体の参加を得るために、協力する団体へ説明に行き、参加を目指す。また各団体の運営スタッフが、円滑に運営をするために、マニュアルの作成等の事務支援をする。	参加者:のべ2000名 従事者:500名
		地域活動に参加する若い人が少ない。	8月28日～(成人式1月12日)	成育成人式運営委員募集の支援	成人式運営委員会に新成人参加し、成人式を運営することで、将来の担い手となる契機とするために、企画運営を支援をする。	対象:新成人130名に協力者を募集 4名
		地域に関わりの薄かった住民の参加促進及び担い手の発掘が無い。	9月13日	中浜地域防災訓練事務、実施支援(再掲)	安否確認訓練、避難訓練、防災訓練の防災をきっかけに地域行事への参加を促し、積極的なさんを得るために、ポスター、チラシでの告知を実施する。また、災害時に協力をくださる人を登録することで、先ず、担い手の発掘をする。防災訓練を契機に、包括支援センター、病院、小中学校との連携をすすめる。	本会場に参加:500名 一時避難所に安否確認報告をした世帯:1223世帯 災害ボランティア登録者:30名
		地域活動に参加する新しい担い手がない。	10月13日～	城東地域活動協議会広報紙の作成支援	城東地域の広報紙の初号は、まちセンが中心となり発行した。地域では、広報紙の編集、発行を契機に新し担い手と、地活協及び地域の行事の情報を発信するために、広報紙の作成、担い手の確保の方法を教える。担い手の確保は、構成団体内からと、外部のボランティアから募集する。	
		地域ので実施していた防災に関心を、小学校も含めて、児童を含めた地域全体で実施する。	11月14日	成育地域避難訓練の支援(再掲)	各町会から小学校へ避難を行なう。小学校、病院、地域の連携を図る。そのために、他地域の実施情報を提供し、地域全体の訓練なので各部会間の情報共有と連携を図るために、会議運営、資料作成の支援をする。	訓練参加者:483名 成育小学校児童:729名 ボランティア:98名
		防災に関して意識を持っている人が少なく、防災活動の積極的な協力者が少ないので。	12月13日	中浜地域災害時支援者の勉強会実施の支援	災害時に共助ができる住民を事前に募集し、登録してもらった住民に対して勉強会をおこなう。勉強会の企画、運営の支援をおこなう。日頃から防災活動の積極的な協力者の養成と防災意識の啓発の支援をする。	出席者:40(登録者97名)
		地域活動の内容が住民に伝わっておらず、十分な広報を行なっていなかった。	12月14日	中浜地域広報誌作成の支援	広報誌の初号は、作成しながら地域の指導してきたが、構成団体内のメンバーにより、企画、作成を行ない、企画会議や作成のノウハウの提供などの支援を行なう。	—

地域活動協議会への支援状況(運営)

【城東区】(受託者:一般財団法人大阪市コミュニティ協会)

めざす姿	地域活動協議会の取組(※)	地域課題やニーズ(支援が必要な課題等)	実施時期	支援策(取組)名称	支援(取組)概要	実績(参加者数等)
地活協を構成する活動主体同士や、地活協と他の活動主体との連携・協働が促進されている	地域活動協議会と他の活動主体との連携・協働【外部との連携・協働】	住民に地域行事の理解が低く、活動に参加する人が少ない。	6月10日～9月13日	中浜防災訓練事業企画、実施運営の支援(再掲)	安否確認訓練、避難訓練、防災訓練の防災をきっかけに地域行事への参加を促し、参加を得るためにポスター、チラシでの告知を実施する。また、災害時に協力をくたさる人を登録することで、担い手の発掘をする。防災訓練を契機に、包括支援センター、病院、小中学校との連携をおこなう。	森之宮病院、しぎの黄金の里と連携して実施。
		認知症が多くなって来ている中、本人や家族が基礎的な学習とネットワークをつくる。	7月1日	聖賢認知症講演会事業実施支援(再掲)	地域と病院とのマッチングをおこない、病院(東大阪病院)と連携し、認知症講演会を実施する。	参加者:30名
		地域活動にかかわりの少ない人の参加を促し、地活協内の団体及び、地域の団内と協働事業の実施。	7月23日～7月25日	聖賢まつり事業支援(再掲)	構成団体以外の団体の参加を得るために、協力する団体へ説明に行き、参加を目指す。また各団体の運営スタッフが、円滑に運営をするために、マニュアルの作成等の事務支援をする。	NPO法人水耕栽培福祉普及協会、NPO法人地域自立支援推進協議会が協力、東大阪病院、中学校の協力
		地域にある店舗が、地域行事への参加、協力が無く、地域と店舗のつながりが無い。	7月24日	地域行事への参加、募集の支援	聖賢まつりをきっかけとして、地域で営業してる店舗に、行事への参加協力が出来るつながりをつくる。	3店舗(1店舗参加)
		地域に関わりの薄かった住民の参加促進及び担い手の発掘が無い。	9月13日	中浜地域防災訓練事務、実施支援(再掲)	安否確認訓練、避難訓練、防災訓練の防災をきっかけに地域行事への参加を促し、積極的なさんを得るために、ポスター、チラシでの告知を実施する。また、災害時に協力をくたさる人を登録することで、先ず、担い手の発掘をする。防災訓練を契機に、包括支援センター、病院、小中学校との連携をすすめる。	本会場に参加:500名 一時避難所に安否確認報告をした世帯:1223世帯 災害ボランティア登録者:30名
		地域で活動する老若男女の文化団体、障害者施設、病院などの発表の場を設けることで、直接関わりのない団体が交流するためのきっかけをつくる。また、地域活動に参加していなかった人の参加を促す。	11月3日	聖賢音楽文化祭の企画、運営支援(再掲)	聖賢地域で活動する多様な音楽、文化団体、障害者施設、病院などが、音楽や習い事の発表する場を設け、参加団体のメンバーが実行委員会を形成し運営を行なう。運営が円滑におこなえるように企画等の事務支援、運営支援をおこなう。障害者施設、病院は運営に関与し地活協と積極的に連携をするために支援する。	参加者、出演者:400名 出演団体:13団体
		例年実施している福祉講演会を、地域にある病院と連携して講演会を実施することで、病院と繋がる機会をつくる。	11月4日～(実施日:12月5日)	鯉江福祉講演会の実施支援	区内にある病院と地域福祉講演の実施を契機に、地域福祉の視点から連携を図る。専門医の立場から講演し、病院職員とともに講演会運営をおこなう。地域と病院が地域福祉を協働するために、調整や事務、会議運営支援をする。	参加者:50名
		地域ので実施していた防災に関心を、小学校も含めて、児童を含めた地域全体で実施する。	11月14日	成育地域避難訓練の支援(再掲)	各町会から小学校へ避難を行なう。小学校、病院、地域の連携を図る。そのために、他地域の実施情報を提供し、地域全体の訓練なので各部会間の情報共有と連携を図るために、会議運営、資料作成の支援をする。	訓練参加者:483名 成育小学校児童:729名 ボランティア:98名
	地域の事業所がまちづくりに活動しているので、繋がりをつく必要がある。	12月14日～	聖賢地域と事業所、神社との連携支援	今まで地活協と企業、神社は行事はバラバラで実施しており、連携が取れていなかった。H28年度に事業を連携をして実施することを目的に会議を実施し、できることから連携し事業実施をおこなう。地域一斉清掃の連携の支援をする。		
地域公共人材の活用						
Ⅲ 組織運営						
議決機関(総会・運営委員会等)の適正な運営	地域が独力で、会議の実施運営、終了後の議事録作成ができる地域と、支援が必要な地域が存在する。	4月1日～	各地域総会、部会開催、運営支援	会議案内及び資料作成ができつつある。議事録作成の指導をおこない、担当者が交代しても継続ができる体制をつくる。独力で総会を開催できない地域に対して、個別に支援する。	—	
	担当者が交代すれば、また最初からの説明が必要になり、地域で知識の流れができていない。	5月22日	成育地域会計実務者会議の支援	本会計から、新会計担当者、各事業金銭出納責任者に会計説明をおこなう支援をし、会計事務の継続を図るための仕組みづくりをする。	出席者:15名	
	規約に沿った総会運営に取り組んでいるが、まだ独力でできない。	5月8日～5月23日	聖賢地活協運営委員会開催及び運営支援	規約に沿った総会運営に取り組んでいる途中であり、総会資料、議事録作成等の事務支援、運営支援をおこなう。	—	
	事務処理の継続が組織として不十分なので、書類の引き継ぎが円滑に出来ない。	4月～	葦地域活動協議会事務局の運営支援	事務局を設置したので、役割や運営方法、総会、部会会議の実施方法などを指導する。また、継続して、広報や人材の発掘の方法を教える。	はぐくみネット、PTAから事務、広報担当で6名参加	

地域活動協議会への支援状況(運営)

【城東区】(受託者:一般財団法人大阪市コミュニティ協会)

めざす姿	地域活動協議会の取組(※)	地域課題やニーズ(支援が必要な課題等)	実施時期	支援策(取組)名称	支援(取組)概要	実績(参加者数等)
民主的で開かれた組織運営と会計の透明性が確保されている	会計事務の適正な執行	パソコンを使っの補助金報告書作成の理解が少し不足している。	4月1日～4月30日	榎並地域決算事務作業の支援	パソコンを使って会計をおこなっているが、精算報告書の作成の指導をする。	役員、会計 のべ16名
		本会計が地活協会計の決算をおこなうが、決算、補助金報告書作成の理解が不足している。	4月1日～4月17日	森之宮地域決算事務作業の支援	補助金精算報告書の確認をおこないつつ、本会計に改めて会計事務を説明指導すると同時に、作成支援をする。	—
		本会計が地活協会計の決算をおこなうが、決算、補助金報告書作成の理解が不足している。	4月1日～4月17日	鯉江地域決算事務作業の支援	補助金精算報告書の確認をおこないつつ、本会計に改めて会計事務を説明指導すると同時に、作成支援をする。	—
		補助金報告書作成の理解が不足している。	4月1日～5月18日	今福地域決算事務作業の支援	地域活動協議会会計書類を確認し、補助金報告書等の作成支援をする。また修正をおこなう。	—
		本会計担当は、補助金報告書作成の理解をしているが、部会会計の担当者として役割が明確で無い。	4月1日～5月14日	城東地域活動協議会会計支援	補助金精算報告書の確認、修正をおこないつつ、本会計、部会会計の役割の仕組みをつくる。	—
		補助金決算報告書の確認と注意点の説明をする。	4月1日～4月28日	城東地域活動協議会会計支援	本会計の担当者は、地活協会計を理解しているため、確認と部会会計に対しての会計説明をおこなう。部分的な修正の支援をする。	—
		本会計担当は、補助金報告書作成の理解が進んでいるが、部会会計の担当者が理解不足である。	4月1日～5月8日	鳴野地域決算事務作業の支援	本会計の担当者は、地活協会計を理解しているため、確認と部会会計に対しての会計説明をおこなう。	—
		補助金報告書等の確認	4月9日～4月20日	葦地域活動協議会決算事務作業の支援	事務局が設置されており、会計事務は事務局担当者から、各部会へ説明指導する仕組みができていますので、事務局に対する説明と確認をおこなう。	—
		会計事務に関して理解が不足している。	4月9日～6月10日	東中浜地域決算事務作業の支援	会計書類を確認して、補助金報告書等の作成を支援する。補助金精算マニュアルを作成し、運営委員会で説明をする。	—
		担当者が交代すれば、また最初からの説明が必要になり、地域で知識の蓄積が少ない。	4月10日、5月14日、5/22日(再掲)	成育地域会計勉強会の支援	本会計から、新人の各会計担当者、各事業金銭出納責任者に会計説明をおこなうことを支援し、会計事務の継続を図る仕組みをつくる。	出席者 4/10: 5名 5/14: 5名 5/22: 15名
		パソコンを使っの会計事務の理解不足	4月15日～5月7日	中浜地域決算事務作業の支援	パソコンのソフトを提供して会計を処理しているため、使い方の指導をする。決算書の作成方法を説明、指導する。	—
		本会計担当は、補助金報告書作成の理解が進んでいるが、部会会計の担当者が理解不足である。	4月16日～5月7日	諏訪地域決算事務作業の支援	本会計の担当者は、地活協会計を理解しているため、確認と部会会計に対しての会計説明をおこなう。	—
		本会計が地活協会計の決算をおこなうが、決算、補助金報告書作成の理解が不足している。	4月20日～4月28日	聖賢地域決算事務作業の支援	補助金精算報告書の確認をおこないつつ、本会計に改めて会計事務を説明指導すると同時に、作成支援をする。	—
		会計担当者が交代したが、会計事務のノウハウの蓄積、継続がない。	6月18日	鯉江会計勉強会実施支援	本会計と部会会計で会計知識の共有を図り、会計事務を継続する仕組みをつくる。	出席者: 5名
地活協本会計は、理解が進んでおり、各部会会計担当の理解不足と、パソコンの会計ソフトを利用するスキルが不足している。	6月22日 10月28日 12月15日	鳴野会計勉強会実施支援	本会計から各部会会計及び金銭出納責任者への会計説明の支援をする。帳票の作成方法、補助金の使途及び決算方法の支援。パソコンを利用した会計の説明。	出席者: 11名 出席者: 7名 出席者: 10名		

地域活動協議会への支援状況(運営)

【城東区】(受託者:一般財団法人大阪市コミュニティ協会)

めざす姿	地域活動協議会の取組(※)	地域課題やニーズ(支援が必要な課題等)	実施時期	支援策(取組)名称	支援(取組)概要	実績(参加者数等)
		年度末になってから、終了事業の精算事務をおこなっていたので、事業終了後、速やかに精算をおこなう。	10月19日～	聖賢地域事後の精算事務の支援	夏祭り、音楽文化祭、運動会などの終了した事業の精算事務の支援をする。領収書の確認などをおこない、中間決算をおこない中間決算の必要性を説明する。	
		フェイスブックを設置したが、投稿の少ない地域がある。	4月～	フェイスブック作成支援	フェイスブックの投稿及び、各地域での投稿者にフェイスブックの操作の指導をする。投稿者が少ないので、投稿者を探し出す手法等を支援する。	—
		目を引くポスター、チラシでなく、事業によっては告知も行っていない。	4月～	ポスター、チラシ作成支援	各地域で作成しだしている、事業ポスター、チラシを、住民に見てもらえるポスター、チラシの作成方法を指導する。また、作成していない事業に関しては、様式を提供し作成指導する。	—
		地域活動が地域住民に浸透しておらず、住民の地活協会に対する認識が不十分である。	6月～	菟地域活動協議会の広報支援	地活協の広報の方法を指導する。事業、地活協をポスター、チラシだけでなく、広報紙、HP、フェイスブックなどを通じて周知し、事業の参加者や出演者を募る。また、地活協の広報をすることで、地活協の協力者を増やす。	上半期 1回発行
	多様な媒体による広報活動	独居高齢者の居場所がなく、また地域内には食料品店がないので、買い物する場所がない。	6月16日～	森之宮「縁側カフェ」事業企画及び実施の支援(再掲)	地域の課題である独居高齢者の「孤独死」を未然に防ぐために、憩の家を地域全体の「縁側の居場所」とし、気軽に集う場を提供し、また他の高齢者とのつながりを作る場所を実施運営するために支援する。地域内の病院(森之宮病院)及び包括支援センターと連携を図り、高齢者の見守りも実施する。買い物難民のために、青果販売も同時に実施し、高齢者以外の住民も集客する。実施運営するためにポスター作成などの支援をおこなう。	新規ボランティア:5名 7月～ 20名程度 青果販売 10月～ 50名程度
		フェイスブックでの広報が充分でないので、情報発信者を増やす。	6月30日	諏訪地域フェイスブック勉強会	フェイスブックの必要性、楽しさを勉強し、地活協の情報を発信する担い手をつくる。	参加者:17名
		担い手が少ないので、フェイスブックを利用している住民に投稿を伝え、投稿のルール作りが必要である。	7月22日 8月21日 10月9日	諏訪地域フェイスブック運営の支援	参加者を増やして、個人情報の理解と運用のルールを投稿者に共有するように伝え、参考事例と案を提示して説明する。	出席者 各5名
		地域活動に関する広報を実施していないので地域活動、担い手募集の広報を行ない、住民に認知させる必要がある。	10月14日～12月10日 12月発行	中浜地域広報紙発行の支援	今まで広報を実施したことがなく、地域での活動、行事などはポスター、班回覧による告知のみなので、行事報告、地域活動協議会などを広報するとともに、地域活動をする担い手が必要であることを認知させる必要があるため、広報会議、企画、作成支援などの広報支援をする。	広報編集会議:6回
		広報紙作成のための効率的な作成方法、内容の改善を含めた知識が不足している。	11月5日	諏訪広報紙発行の支援	初号を発行したが、行事などはポスター的な内容なので、行事報告、地域活動協議会などを広報などの企画、内容やパソコンを使った作成方法を、2号を作成しながら支援する。	広報委員:3名
	多様な媒体による広報活動	地域活動に関する広報を実施していないので地域活動、担い手募集の広報を行ない、住民に認知させる必要がある。	11月1日～ 1月5日発行	今福広報誌発行の支援	今まで広報を実施したことがなく、地域での活動、行事などはポスター、班回覧による告知のみなので、行事報告、地域活動協議会などを広報するとともに、地域活動をする担い手が必要であることを認知させる必要があるため、広報会議、企画、作成支援などの広報支援をする。	新成人35名に広報紙を配布し、地域活動の参加を啓発する。
		地域活動に関する広報を実施していないので地域活動、担い手募集の広報を行ない、住民に認知させる必要がある。	12月4日～	放出広報紙発行の支援	今まで広報を実施したことがなく、地域での活動、行事などはポスター、班回覧による告知のみなので、行事報告、地域活動協議会などを広報するとともに、地域活動をする担い手が必要であることを認知させる必要があるため、広報会議、企画、作成支援などの広報支援をする。	広報編集会議:5回
IV 区独自取組						
(区が「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)」において設定している具体的な取組を右欄に記載)	ビジネス手法で解決できる課題を探して、事業計画を実施する	60歳以上の方が区内で多く、軽作業ができない高齢者と時間があるリタイアした人の活用	8月10日～	今福お助け隊事業計画作成の支援(再掲)	60歳以上の方が区内で多く、軽作業ができない高齢者と時間があるリタイアした人の活用のマッチングをする。コミュニティビジネスの視点から事業検討し、他地域の事例を紹介する。ニーズ把握の調査を提案し、実施に向けて検討している。	役員5名、包括支援センターとニーズ調査の検討。

※具体的な取組については「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)」を参照